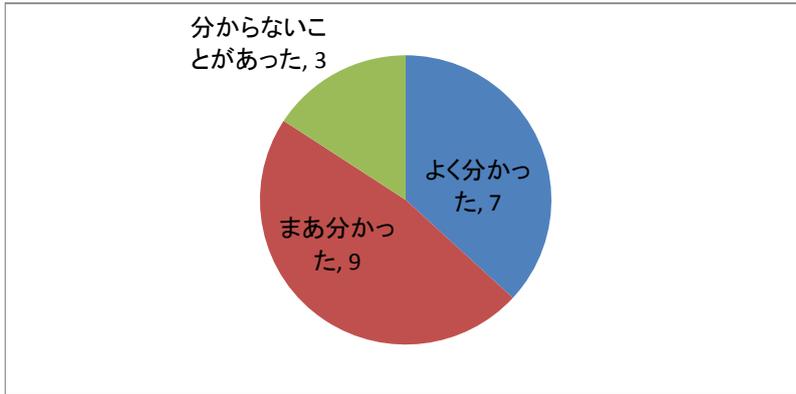


参加者数 26名
アンケート回収 20名

1 第1部 基調講演「議会基本条例を真の自画像とするために(土山教授)」について



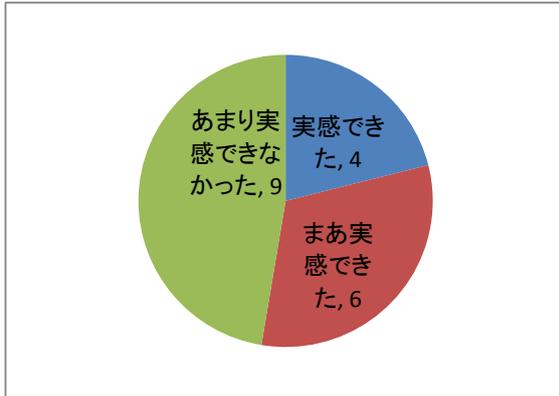
よく分かった	<p>前年度の議会改革についての講演を受けていたので、復習のつもりで聞いていた。</p> <p>土山先生には昨年度から大変お世話になってきた。1日限りでなく会を重ねることで深まってきたと思う。新しい言葉で政策議会という言葉も出てきた。今後基本条例のもと、政策提案できる機会に成長していかなければならない。</p> <p>何のために誰のために条例を作り、機能させるかが明確であった。</p> <p>議会として条例制定への準備過程で多くの気づきがあった。そのことで改革が進んできた事実を市民に知ってもらう機会となったことは意義深い。</p> <p>何のための条例であるか、また策定した条例を形だけのものとし、実像となるよう取り組んでいかなければならないということ等、再認識した。</p> <p>基本条例という最高規範を手に入れたが、活かすも殺すも議員の努力と姿勢にかかっているということではないか。</p>
まあ分かった	<p>もう少し時間がほしかった。</p> <p>例、実像と理想像には段差があり、その差をなくす・・・この時の説明をしっかりと聞くことができなかつたため、よく分かったに○できず。</p> <p>市民の負託に応えるために、議員ができること議会ができることがあるが、市民福祉の増進をはかることを使命として活動していくことが大切であることを学ぶことができた。</p> <p>議会基本条例により、本市議会をどう変えていくか、何を变えていかなければならないか、課題がみえてきたと思う。</p> <p>お飾りにしないように議会と市民が共有していくように取り組む。このままでよいのではないので、修正も考える時が来る。</p> <p>すぐに理解できないような内容が一部あった。</p> <p>自分なりに理解できた。</p>
分からないことがあった	<p>学問と現実の差が基本的に違う前提がベースになっていない。</p> <p>内容がわからないというより、限られた時間の中での説明ということもあったと思うが、講演が早口のため、聞き取れないところがあったのは残念。市民は議員の鏡というのはとてもよく理解できた。だからこそ、議員力アップが必要ということも理解できた。</p> <p>その地方議会に合った条例の作り方というより、とにかくつくらせることが目的のように感じた。</p>

2 第2部 パネルディスカッション「市民に信頼される市議会を目指して」について

①目黒議長(会津若松市)、川上元議長(可児市)、瀬戸市議員のパネルディスカッションの中で印象に残ったことはありましたか。

議会基本条例が制定されることにより、市民のために活動できる議員と議会のための議会活動の原則がはっきりとし、基本条例が有効に活用されれば、理事者からも、市民からも理解される。
目黒議長は率先垂範で実行されていると感銘を受けました。
やはり現場の具体的話をきくと現実感がある。まずは予算決算からという視点、また、常任委員会の活動の重要性など、すべてが参考になる。急に変えることは難しいことであろうかと思うが、できることから始めていくことが大切である。
自分の立つ位置が終始一貫してぶれていないし、今後もぶれない意思が伝わってきた。
議会の力は大きい。議員は線香花火で、議会は打ち上げ花火である。
議員提案→線香花火 議会提案→打ち上げ花火 予算決算を4週間議論し、「黒字を伸ばして赤字を削る」を4年サイクルでみていく。
目黒議長…5月と11月に地区別とか分野別で意見交換。瀬戸は4回ということで消化不良にならないか。意見交換での意見整理方法は、広報広聴委員・委員会がテーマに沿って調査。月2、3回開く。消極的賛成(付帯決議、要望的意見)手引書(全戸配布)の話 川上元議長…なまけもの楽園からの脱却。高校生議会:約90%が実際に投票した。被災地避難生活 女性・子ども目線必要。線香花火を打ち上げ花火に。各種団体との意見交換は大に行うこと。
川上氏の発言で、市民意見の吸収に努めることで議会が動かなければならないこと。
・ママさん議会及び高校生議会の開催 ・月2回の委員会開催(テーマに沿って調査する) ・5月及び11月の報告会(地区別15箇所で開催) ・市民意見を反映し提言しサイクルとしてまわっている。
東京都議会の例をあげての二元代表制の本来を話されたこと。
会津若松市では、社会的課題をもっている団体との意見交換会を実施している。また、広報広聴委員会として市民意見をまとめ、委員会に課題提供している。 本市の報告会について、消化不良にならないかとの指摘。 両市ともに予算決算審査に時間をかけ、政策サイクルが確立されている。政策提言の仕組みができています。
両市議会ともに市民に対し責任を持って、しっかりと一つ一つを取り組んでおられるということ。そして、容易でないことを感じた。
議会報告会の運営について、身の丈に合った運営をしていく。市民の声をどう聞くのか。どのような場所で、どのような内容なのかの問題である。数をこなすだけでは問題が残る。
川上元議長が発言された「なまけもの議会(会派)」を何とかしなければ、市民に説明できない。
・会津若松市の議長のパワー・議会改革は本当に素晴らしいと思いました。市民の皆様からの意見を大切に政策提言に結びつける仕組みづくりができていて、市民参加で手引きも作成されているなど、本市でも地に足をつけて、ひとつひとつ着実に取り組んでいくことを検討していくべきと考えます。また、広報広聴委員会が、本市のような市政報告会や意見交換会の運営にとどまらず、意見集約、機能別に分類、委員会別にするなど中心的な役割をしている点も、今後見習うべきと考えます。 ・可児市の元議長の雄弁さに魅了されました。「怠け者の楽園からの脱出。」「議会だけが市民の意見を聞ける。」との言葉が印象的でした。個人の一般質問を取り上げて、委員会、議会全体の提案としていくことができることは理想です。それを実践されている点、さすが議会改革が進んでいる証拠であると思います。消極的な意見で申し訳ありませんが、現段階ではとてもハードルが高いように感じます。
汗をかいている姿がよく分かった。
市民が主語になる、頭にもってきてから物事を進めるとした点。
他の市の議員(事務局)の出席が多かった。
目黒議長の話は議会改革を全国で推進してきてただけはあると感じた。よい例の話より悪い例の話が聞きたかった。

②円卓会議の一員として参加し、**課題の共有**を実感することができましたか。



3 研修開催にあたり、市民への周知方法

周知方法としては、やはり議員の口コミも必要となってくる。
周知の方法が結果に影響することはない。こだわることが不思議。
周知という点では効果があったか疑問
できる限りのツールで情報を提供しているが、政策に比較的関心が薄いのではないか。同席された市民は、全く関心を持ったことのない方であった。
いつも議会に来られている方が多かった気がした。
たまたまかもしれないが、普段の意見交換会に参加していただいている方の中にも、前日にご案内したところ、この研修会についてご存知ない方もいた。理由がわからないが、参加者が思ったより少ないと感じた。自治会会長会議で周知することで、町内チラシ以上に、周知できる事柄があると思う。毎月行われる同会議でのアナウンスをしてはどうでしょうか。
先着順がよいと思う。
市民の中には知らない人がいた。
特にない。今後は議会独自の情報発信の方策を考えるべきでは。

4 全体の進行について気づいたこと

→時間配分、進行の仕方、パネルディスカッション、円卓会議など

まあよかったが、休憩をはさんでもよいのでは。
全体としてはスムーズに進行できたと思う。
目的がはっきりしないので、すべて中途半端な印象を受けた。
円卓会議の時間がもう少しほしい。
進行の仕方については、とまどったり理解しにくいという市民の声もあった。
ゲストスピーカーの時間を多く確保できたらよかったのではないかな。
時間配分＝よかったと思う。進行の仕方＝問題なかった。 パネルディスカッション＝モニターによる映しだしもありよかった。 円卓会議＝グループによって、課題、進行が異なり、まとめが大変だったのでは。
市民の関心がないこともあり、サブセッションはあまり機能しなかった。
グループ分けが3人程度、テーマも分かりやすいものだったので、サブセッション15分でよかったと思う。
白板の文字が分かりづらかったのでわかるようにするとよい。
円卓会議について、本会議場で行ったが、もう少し一般的な会場の方がやりやすかったと思う。
時間配分、進行はとてもスムーズで良かったと思います。 円卓会議の手法はとてもいいと思いますが、スクリーンの位置が見にくい位置があった点と、テレビ画面が不鮮明で見にくかったので、議場の椅子机が固定である以上は、この設定に無理があったのではないのでしょうか。
ファシリテーショングラフィッカーがすばらしかった。
時間を指定した以内で行っていただけた。
これまでのシンポジウムとの差がよく分からない。

5 意見・感想を自由に記入

<p>市民と交互に座り、円卓会議をしたのはあまり議論が活発にならなかった。まだまだこの議会基本条例がどのようなものになるか、おちてきていないような気がした。今後、どのように基本条例を活用していくかが問われる。</p> <p>ファシリテーショングラフィッカーのまとめがすばらしかった。</p>
<p>市民も参加する中で、今回、目黒議長、川上元議長に参加していただき、現場での実際の取り組みを聴くことができたことが大きい、両市議会と本市議会との差は大きいと思うが、基本条例の制定を機にさらに改革を進めていかなければならない。</p> <p>土山先生の円卓会議という方式もよかったと思う。今後も知見の活用を行い、議会、議員として成長していくことが必要である。</p>
<p>せっかく会津若松市、可児市から議長をお招きしたからには、両市の経験や現実の運用における体験談をじっくり聞く機会がほしかった。これではお二人に瀬戸まで来ていただいたのに失礼したのではないかと感じた。</p>
<p>参加市民の方の意見や感想も聞くとよかったと思います。</p>
<p>議場ということもあり、スクリーンが遠かったり、場所によっては見にくい人たちもあった。</p> <p>円卓会議は初めてだったが、対面式の会議より雰囲気は固くないと感じた。</p> <p>先進自治体から直接様々な事例報告を聞くと、本市はまだまだこれからだと感じた。</p>
<p>2市議会の実情を聞くことができ、やらなければならないことが明確になった。</p>
<p>市民の声として、市民が発言する時間を確保してほしいと思ったのご意見があった。</p>
<p>多くの議会が意見交換会や報告会を行ってはいるが、市民参加の議会研修会の開催は、あまり例がなかったのではないかと。基本条例に謳ってある事項が実践された好例であると思う。</p>
<p>本市の課題として 広報広聴の在り方の研究が必要 会津若松・可児市ともに各種団体との意見交換を踏まえ、市民意見として委員会に課題提供し、政策に反映させる仕組みが確立している。 市民意見については、個人・団体をどう対応するのか。</p> <p>予算決算審査を通して政策サイクルを確立すること 提言の在り方等について、より有効なものとなるよう研究すること。</p>
<p>土山先生、ゲストスピーカー、瀬戸市議会3名のみの方の発言でしたが、市民からの意見・質問の時間をつくってもよかったと思う。</p> <p>議会の機能強化の整備はできたが、いちばん肝心な問題は、一議員の問題・課題への意識がどうなのか、発言する上でのスキル向上、技術力をどのように獲得するのか、その機会を各議員一人ひとりの認識がどうなのか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 約2時間半の研修のため、途中でトイレ休憩があっても良かったと思う。お隣の市民の方は我慢しておられたようです。遠慮しながら途中でトイレに行かれました。高齢者、女性がほとんどであった点も考慮してもう少し、配慮があっても良かったと思う。 ・ 今回は議場での市民と議員との合同研修ということでしたが、ほとんど毎回の意見交換会等に参加されている市民の方から、服装に関して、どうしていつもネクタイにスーツなのですか？と聞かれた。「こちら緊張します。もう少し、ラフな感じの服装で接して下さるといいと思います。」と意見をいただいた。他市でも取り入れている、ロゴ入りブルゾンなど揃えてはどうでしょうか。 ・ 一年を通して土山先生の研修を受講して、とても勉強になった。その上で一言申し上げるなら、今後は違う視点での研修もあって良いのではないかと思います。 ・ 実践の経験のある方の話は参考になると、今回の目黒議員、川上議員のお話の視点など伺う中で必要と感じた。できれば今後も、時折来ていただいて喝を入れていただきたいと思った。
<p>システムとしてはよくまとまった研修だった。</p>
<p>今回の合同研修会を知らなかった市民がいたことが残念だった。 もう少し多くの市民の方が参加していただけたらと思っていた。</p>
<p>本会議場での円卓会議は厳しいのではないかと。市民の方々の顔が見えない。</p>